〖短歌・俳句・川柳〗

本誌編集室担当

短歌

週六日ローン背負いて働ける
友の余生は傘寿からなり
●印西市　山田　明

雨続き日本列島水浸し
除草仕事も再々延期に
●狛江市　根方一吉

「ありがとう」の言の葉残して逝きしとか
美輪明宏さんに吾もありがとう
●東京都神津島村　石田希代子

AIと学ぶ世の中感謝する
ただ行き過ぎに注意忘れず
●平塚市　鬼武澄江

一片の拾う紅葉は本の間に
いずれ私の栞となりぬ
●平塚市　田中博由

山合で沢の音聞きて一時を
友と語い夕やみ迫まる
●諏訪市　太田章穂

霧の海見る山頂に祠有り
体健在拍手二つ
●福知山市　帖尾　充

コンバイン我の田圃を走り出す
頭を垂るる稲穂消えゆく
●綾部市　岩瀧憲一

お団子のひと串夫と分け合つて
月見している公園ベンチ
●明石市　小田和子

秋色に染まり始める里走る
一両列車がたんとごとん
●明石市　小田慶喜

鈴生りで覗ける額が見開いて
あどけない虫達の側には
●南あわじ市　小川千富

狭い畑連作出来ぬと畝睨み
パズルの如く頭を悩ます
●香芝市　髙田尚昭

俳句

終戦日食べ放題する孫の居て
●神栖市　安澤宏介

登校児香も眺む夏薔薇
●本庄市　入　利雄

堂々と畑の真中蓼の花
●本庄市　長谷川千鶴子

ひまわりや絵日記の中いきいきと
●草加市　長谷部禎子

処暑なのに季節外れは死語となり
●戸田市　稲田隆博

椎の実を齧り齧りて父語る
●武蔵村山市　原野晴光

蕗味噌に故郷忍ぶ夜食かな
●中野市　髙木武彦

春立つやベンチ温める愛煙家
●塩尻市　大家協治